

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	(試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)			
2	通 信 費	40,000	当 座 預 金	80,000
	旅 費 交 通 費	30,000		
	雑 費	10,000		
3	仕 入	510,000	前 払 金	50,000
			当 座 預 金	450,000
			現 金	10,000
4	商 品 券	40,000	売 上	45,000
	他 店 商 品 券	10,000	現 金	5,000
5	有 価 証 券	2,530,000	当 座 預 金	2,000,000
			当 座 借 越	530,000

・解説

1. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)

2. 小口現金に関する問題です。
小口現金の仕訳は、【支払いに関する仕訳】と【補給に関する仕訳】に分けて考えると分かりやすいです。

【支払いに関する仕訳】

小口現金から支払った経費を計上します。仕訳自体は簡単なので特に問題ないと思います。

★解答仕訳①

(借) 通 信 費 40,000 / (貸) 小口現金 80,000

(借) 旅費交通費 30,000

(借) 雑 費 10,000

【補給に関する仕訳】

問題文に「当店では定額資金前渡制度（インプレストシステム）により、小口現金係から毎週月曜日に前週の支払報告を受け、これにもとづいて資金を補給している」とあるので、支払額合計 80,000 円と同額の小切手を振り出して小口現金を補給します。

★解答仕訳②

(借) 小口現金 80,000 / (貸) 当座預金 80,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。なお、本問は問題文に列挙されている勘定科目に「小口現金」がないので、借方と貸方の小口現金勘定は相殺します。

小口現金に関する問題は、第 105 回の問 3や第 112 回の問 4、第 113 回の問 5、第 121 回の問 4、第 126 回の問 2でも出題されているので、あわせてご確認ください。いずれの問題もほとんど同じ形式で出題されています。

3. 仕入取引に関する問題です。

この問題は【前払金に関する仕訳】【当座に関する仕訳】【引取運賃に関する仕訳】に分けて考えましょう。

【前払金に関する仕訳】

問題文に「注文時に支払った手付金 ¥ 50,000 を控除し」とあるので、既に切られた仕訳を考えたくて解答を導き出すと分かりやすいです。

☆既に切られた仕訳

(借) 前払金 50,000 / (貸) 現金など 50,000

★解答①

(借) 仕入 50,000 / (貸) 前払金 50,000

ここで注意していただきたいのは、前払金勘定と仮払金勘定の違いについてです。

前払金というのは、**なんのためのお金かはっきりしている状態で支払った場合に計上する勘定**で、一方、仮払金というのは、**なんのためのお金が決まっていないが、とりあえず先に支払った場合に計上する勘定**です。

本問の場合は、問題文に「注文時に支払った手付金 ¥ 50,000 を控除し」とあり、**なんのためのお金かはっきりしている状態で支払っています**ので、前払金勘定を使って処理していたと判断します。

【当座に関する仕訳】

問題文に「残額については小切手を振り出して支払った」とあるので、当座による仕入を認識するだけです。

★解答②

(借) 仕入 450,000 / (貸) 当座預金 450,000

【引取運賃に関する仕訳】

引取運賃などの付随費用は、商品を仕入れるさいに不可避免的に発生する費用なので、仕訳を切るさいは**仕入勘定に含めて処理**します。

★解答③

(借) 仕入 10,000 / (貸) 現金 10,000

以上、①②③をまとめると解答仕訳になります。

4. 売上取引・商品券に関する問題です。

まず、問題文の「代金は当店発行の商品券 ¥ 40,000 ~で受け取り」から、以前に発行した**商品券の額面金額を支払う義務が消滅**したことが分かるので、商品券勘定を 40,000 円減額します。

★解答① (当店発行の商品券を受け取ったときの仕訳)

(借) 商品券 40,000 / (貸) 売上 40,000

また、問題文の「他店発行の商品券 ¥ 10,000 で受け取り」から、新たに商品券の額面金額を受け取る権利が発生したことが分かるので、他店商品券勘定を 10,000 円増額します。

★解答②（他店発行の商品券を受け取ったときの仕訳）

（借）他店商品券 10,000 / （貸）売上 10,000

なお本問では、45,000 円の売上に対して、50,000 円分の商品券・他店商品券を受け取っているため、差額の 5,000 円をおつりとして支払うとともに、同額だけ売上勘定を減額します。

★解答③（おつりを現金で支払ったときの仕訳）

（借）売上 5,000 / （貸）現金 5,000

以上、①②③をまとめると解答仕訳になります。

商品券に関する問題は、第 104 回の問 3や第 114 回の問 1、第 118 回の問 5、第 120 回の問 2、第 124 回の問 1、第 129 回の問 3、第 138 回の問 5、第 145 回の問 2でも出題されていますが、本問（商品券の授受）と第 114 回の問題（商品券の精算）が解ければ、簿記 3 級の商品券対策はじゅうぶんです。

5. 有価証券の購入と当座取引に関する問題です。

まず有価証券の購入に関しては、取得原価に付随費用（取得に伴い発生した費用）を含めて資産計上します。

有価証券の取得原価＝購入代価＋付随費用＝@5,000 円×500 株＋30,000 円＝2,530,000 円

次に当座取引の処理に関しては、【当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制】と【当座勘定のみを使う 1 勘定制】の 2 つが考えられますが、この分野は日商簿記検定 3 級の頻出論点なので、どちらの処理も必ず押さえておきましょう。

本問は、問題に列挙されている勘定科目に**当座預金・当座借越勘定がある（当座勘定がない）**ので、2 勘定制で処理すると判断します。

■当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制の仕訳（解答）

当座を増加させるような取引（商品の売上や有価証券の売却など）の場合は、まず当座借越があるか確認します。当座借越があればそれを相殺したうえで残りを当座預金勘定に計上し、ない場合は全額をそのまま当座預金勘定に計上します。

逆に、当座を減少させるような取引（商品の仕入や有価証券の購入など）の場合は、まず当座預金の残高があるか確認します。当座預金の残高があればそれをゼロになるまで減額したうえで残りを当座借越勘定に計上し、ない場合は全額をそのまま当座借越勘定に計上します。

本問は、問題文に「**当座預金の残高は ¥ 2,000,000 である**」とあるので、まずは当座預金勘定を減額し、それでも足りない 530,000 円（＝2,530,000 円－2,000,000 円）を当座借越勘定で処理します。

★当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制での解答（本問）

（借）有価証券 2,530,000 / （貸）当座預金 2,000,000
（貸）当座借越 530,000

■当座勘定のみを使う1勘定制の仕訳（参考）

参考までに1勘定制による場合の仕訳も確認しておきましょう。当座に関する仕訳は全て「当座勘定」を使って機械的に処理するだけなので2勘定制よりも簡単です。

☆当座勘定のみを使う1勘定制での解答（参考）

（借）有価証券 2,530,000 / （貸）当座 2,530,000

有価証券の購入に関する問題は、第108回の間4や第119回の間2、第121回の間5、第124回の間5、第133回の間1、第138回の間1、第143回の間1、第148回の間3で出題されています。

また、当座取引に関する問題は、第100回の間2や第104回の間2、第105回の間1、第114回の間5、第121回の間5、第122回の間2、第125回の間5、第129回の間1、第133回の間1、第134回の間3、第135回の間5、第136回の間5、第137回の間1でも出題されているので、あわせてご確認ください。